慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	池田龍蔵著 株券市価論
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.3 (1921. 3) ,p.461(151)- 462(152)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210301-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

をギルド社會主義の根本思想たる自由の要求に起し、自由は單に政治的なるのみならず、經濟的なることを要すとし、更らにその自由を確保すべき制度としてのデモクラシーの基礎即ち屢々その舊著において論じた所謂機能的民主主義functional democracyを論じた。かくて第三章に入つて機能的組織の一としてのギルドの構造を、第四章に產業的ギルドを論じ、第五章に入つては以上の生產方面より轉じて消費方面を觀察し、消費を家庭用、個人用の消費の部分と共同消費例へば一都市における水道、瓦斯の如きものに分つた。（コールは前者をpersonal and domestic consumption、後者をcollective consumption と呼んだ。）さうして、その前者に對しては消費組合運動、後者に對しては、都市社會主義の重要なることを述べ、ギルド社會主義の社會においても、その重要なる地位を占むべきことを論じた。次にその國家論を論じてゐるが、彼は國家 state なる文字を用ゐること少なく、殆んど之をcommuneなる語に換へたことは吾人の注目に値することである。これと同時にコールはNational Guildの主張者であるが、この書においては著しくcentralizationを斥けてdecentralizationを强調した點は、そのstateに代ふるにcommuneを以てせんとする傾向と共に吾人の注意しなければならぬ點である。

而して本書の特徵の一とすべきは、從來にも增してギルド・ユウトピア（かゝる語を許すとせば）を描くことに熱心である點である。コールは、このユウトピアを描くのは、從來の社會がこのユウトピア通りにならなければならぬとするためではなく、之によつて將來の社會に對する考察を盛んならしむるためであると云つてゐるが、この點は融通の利く、――惡く言へは妥協的の――英國人的氣質とも考へられるし、またユウトピアを描きながら、ユウトピアンと云はれない理由ともなるであらう。

その第二の特徵は嘗てギルド社會主義者が論じたことのない農業上にギルドの原理を論じてゐることである。（コールはその著の脚註において National Guild League が農業上の問題について研究してゐて、之に對する解決を近く發表するだらうと記してゐる。）それからその第三は世界におけるギルド主義的運動を觀察した點である。

要するに本書はコール最近の立場を知り得ると同時に、從來の著書を系統立てたものとして、且つ生長しつゝある學說の中間的產物として、ギルド社會主義研究家の好參考資料であらう。（加田哲二）

池田龍藏著　**株券市價論**

四六判二〇九頁
定價二圓七拾錢
大鐙閣發行

株券市價は經濟界のバロメーターであることは誰も知つてゐる。そうしてその研究は「單に取引所關係者及び株券投資家にとつて重要なるみならず、苟も商業界、經濟界に關係を有するもの」の看過すべからざるものであるといふことも異議はない。然しながら「此の方面に關する注目すべき研究の發表は誠に寥寥たるもので」「大部分は所謂相場虎の卷式の非科學的のものであつて、組織的、系統的に出來て居るものは殆んど見當らない」ことを「當代學界の不祥事」として出版せられたのが本書である。そうして本書は嘗て同じ著者の手に成りたる「無盡の實際と學說」と同じく「今後著書として公にしたき希望」を以て再び「稿本」と銘打つて上梓せられたものである。以て著者の意氣とその眞摯とを察すべきである。

著者は先づ株券市價論と一般物價論との關係を觀察し、「株券の市價も一般物價と同じく之れに對する需要供給の一致した點換言すれば株券需給者の競爭によつて定まるものと云ふ原理」を道破し、次いで遂ひに「今日まで科學的に調査討究せられなかつた」株券に對する需給を決定する要素を、一株券及其會社の內部的要素、二株券及其會社の外部的要素となし、更らに前者を九項に分ち、後者を六項に分ち、それぞれの項目を細分して簡單なる說明を加へてゐる。

故に本書は株券市價の決定に關する一般的要素論とも云ふべきものであつて、執筆に方り在來の類書に「囚はれる事を恐れて一切參照しなかつた」著者の識見と苦心の存するところは十分諒知することが出來る。然しながらそれと同時に從來この方面の研究が等閑に付せられたる所以は著者の云ふが如く「學者が其の研究の目的として取扱ふには頗る厄介千萬なものである」として忌避したるにのみ因るものでないことも承認せざるを得ない。

斯く云へばとてこれが爲めに本書はその價値を毫も失墜するものではない。何となれば本書は既に著者自ら述べたるが如く、嘗て本誌幷びに國家學會雜誌々上に於て著者と渡邊鐵藏博士との間に行はれたる論爭により、著者は「取引所相場の成立要素につき博士と少しく說を異にして居るを知つたので學問上の責任から本書を公に」せられたものであつて要素論は本來その研究の核心を形成するものである。（尙、當時の著者の論文は附錄第二として本書に收錄せられてゐる）。然かしこれ等は各要素の結合程度、幷びにその勢力程度は、明かに「その場合、場合によつて結合組合せの數及び具合が異るのである」し、たま「更らにその場所と時とによつて各要素の勢力即ち影響の程度が異るのである」から「豫め說明する事が出來ぬものである。」從つて實際家がこの著書によりて期待すべきことはその有する斷片的知識の統一を求むることにある。加ふるにこの著書に對する著者の周到なる注意と不撓の研鑽の跡は、本文を通讀せざる者と雖も一度附錄第一として收錄せられたる、六號活字三十頁に亘る要素一覽表を瞥見したるものは容易にこれを窺知することを得るものと思ふ。

最後に評者はかゝる難問題に對し解釋の先鞭をつけたる著者の苦心と尙、研究を續けて「今後著書として公にしたき希望」を有せらるゝ著者の熱心に對して敬意を表して已まぬものである。（園乾治）

三浦周行著　「國史上の社會問題」

菊版三六四頁
大鐙閣發行
定價三圓七十錢

本書は三浦博士が大阪の懷德堂に於いて講演された手控に多少の修正を加へられたものである。現代社會問題を論ずる學者論客の多數が非歷史主義であることを憾みとして、それらの人々に「歷史的理解を共に、其論策、施設上、多少の暗示や刺激を與へ」ることが（はしがき）此の書の目的であるが、更に他方「從來の史家は餘りに政治や軍事に重きを置き」、（六頁）「社會の裏面や下層に流れて居る暗流が、段々漲つて來るにつれて、是迄表面勢力のあつた上層のものも、いつしかそれに推し流されて漸次下層と入れ替はる」（七頁）歷史事實の眞相を閑却して居ることに對して、新しく裏面に潛む社會問題を明かにしやうと云ふのも一つの目的であるらしい。併し「もとより現代の社會問題に結び附けやうとするものでも何んでもないのであつて、何處までも過去の歷史に現れた問題を、事實有りのままに說いて、專門の研究的立場から批判して行かうといふに過ぎぬ。」（二〇頁）

次ぎに本書の內容を示すと上古の社會問題として姓氏問題、貧富問題を、中古の社會問題として土地分配の問題、貧富衝突の問題を論じ、鎌倉時代の社會問題、室町時代の社會問題、豐臣時代の社會問題を概觀し、江戶時代の社會問題として社會階級の確立、浪人の取締、無宿の救濟、社會運動、町人の向上等を擧げて居る。併し前にも述べた通り本書は元來が講演であるが爲めにか、中古の社會問題が第四講から第十一講まで八講を費して居るにも拘らず、他の四時代に僅か五講、殊に江戶時代の如き最も多くの重要なる社會問題の發生せる時代を二講に足らない紙數を以つでしたのは、甚だ失當であり遺憾であると思ふ。

併し本書が大體に於いて國史に現れた其の時代々々の社會問題を概觀する點に就いては成功